※令和４年度以降入学生用

学校番号	１００５

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	(学) 世界史 (西洋)	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「詳説世界史」　(山川出版)						
副教材等	新課程　ニューステージ世界史詳覧　(浜島書店)　自作プリント						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・２年生で学習した内容の続きであり、主にヨーロッパやアメリカについて学習する。
・授業での知識をもとに、自身が興味をもった内容について、個人・グループでさらに深く調べ学習を行う。
・各地域や各国の歴史を知り、現在に至る様々な諸問題の根底を知る。

2　学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
（１）欧米の近代以降の歴史を中心に世界史の大きな枠組みと展開などを捉える。
（２）地図資料や歴史史料を用い、各地域の地理的条件や日本の歴史と関連させ、総合的に考察する力を養う。世界の文化と伝統の特色についての認識を深める。
（３）歴史的思考力をもとに、日本国民としての自覚を持ち、他国や異文化を尊重する態度を身につけ、国際社会で主体的に生きるための資質を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究、解決しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	大貿易・大交流の時代	・ヨーロッパの海洋進出 ・アメリカ大陸(ラテンアメリカ)の変容	a: ヨーロッパの海洋進出について、その動機や背景、経緯を理解している。 b: ヨーロッパ人による航海と探検を示す地図やラス＝カサス『インディアスの破壊についての簡潔な報告』などの資料をもとに、ヨーロッパの海洋進出が諸地域にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現している。 c: ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査	定期考査	授業観察 提出課題

※令和４年度以降入学生用

	近世ヨーロッパ世界の動向	・ルネサンス ・宗教改革	a：ルネサンスの特徴や広がり、それが後世に与えた影響を理解している。 新しい宗派の成立過程やその後のヨーロッパの宗教分布を理解している。 b：美術作品の図像などの資料をもとに、ルネサンスの新しさと古さを多面的・多角的に考察し表現している。 「九十五カ条の論題」や『キリスト者の自由』などの資料をもとに、宗教改革の動きが広まった要因を多面的・多角的に考察し表現している。 c：ルネサンスについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 宗教改革について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査	定期考査	授業観察 提出課題

※令和４年度以降入学生用

2	近世ヨーロッパ世界の動向	・主権国家体制の成立 ・オランダ・イギリス・フランスの台頭 ・北欧、東欧諸国	a: 主権国家および主権国家体制の成立について、それまでのヨーロッパの状況と比較したうえで理解している。 オランダ・イギリス・フランスがそれぞれ持った有利な点や課題を理解している。 北欧・東欧の各国の関係の推移や、それぞれにおける改革の内容を理解している。 b: ウェストファリア条約の内容や当時の戦争の様子を示す図像資料をもとに、主権国家体制の成立と戦争の関係を多面的・多角的に考察し表現している。 覇権争いの経過や「権利の章典」などの資料をもとに、イギリスが覇権を握るに至った要因を多面的・多角的に考察し表現している。 ロシア・プロイセン・オーストリアの状況を比較したうえで、啓蒙専制主義による改革が各国におよぼした影響を多面的・多角的に考察し表現している。 c: 主権国家体制の成立について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 オランダ・イギリス・フランスの覇権争いについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 北欧・東欧の動向について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査	定期考査	授業観察 提出課題

※令和４年度以降入学生用

	産業革命と環大西洋革命	・産業革命 ・アメリカ合衆国の独立と発展 ・フランス革命とナポレオンの支配 ・中南米諸国の独立 ・ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動	a: 産業革命が 18 世紀後半のイギリスから始まった背景や技術革新の展開を理解している。 アメリカ合衆国がどのような歴史的経緯をたどって独立したのかを理解している。 フランス革命が起こった要因やナポレオンが台頭した背景を理解している。 b: 当時の工場の様子を描いた図像資料や都市の人口を示す統計をもとに、産業革命が社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 アメリカ独立宣言や「権利の章典」（第 11 章４節）などの資料をもとに、アメリカ合衆国独立の独自性を多面的・多角的に考察し表現している。 「旧体制」の風刺画などの図像資料や人権宣言などの資料をもとに、フランス革命において「国民」を主役とする社会が創出されたことについて、多面的・多角的に考察し表現している。 c: イギリス産業革命について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 アメリカ合衆国の独立について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 フランス革命とナポレオンについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査	定期考査	授業観察 提出課題

※令和４年度以降入学生用

3	イギリスの優位と欧米国民国家の形成	・列強体制の動揺とヨーロッパの再編成 ・アメリカ合衆国の発展 ・19 世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄	a: 19 世紀後半のヨーロッパ情勢がどのように推移したのかを、時代的な背景や各国の共通点・相違点もふまえて理解している。 南北戦争につながったアメリカ合衆国内の対立構造やその後の展開を理解している。 19 世紀欧米文化の展開と近代諸科学の発展の経緯を理解している。 b: 鉄道距離の推移を示す統計やイタリアとドイツの統一を示す地図などをもとに、19 世紀後半にヨーロッパの再編成が進んだ背景を多面的・多角的に考察し表現している。 アメリカ合衆国の領土拡大を示す地図や大陸横断鉄道開通の写真などの図像資料をもとに、アメリカ合衆国の急速な発展の要因を多面的・多角的に考察し表現している。 19 世紀欧米文化のさまざまな事例をもとに、この時期の文化と現代の文化とのつながりを多面的・多角的に考察し表現している。 c: 19 世紀後半のヨーロッパの再編成について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 アメリカ合衆国の発展について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 19 世紀欧米の文化について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査	定期考査	授業観察 提出課題

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度